

必ずできる!

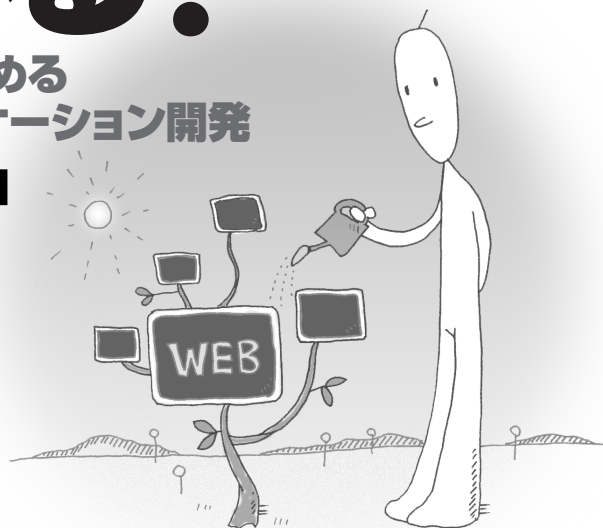
基礎固め ゼロからはじめる Webアプリケーション開発

ASP.NET

第9回

スケジュールアプリに 共有機能を付加しよう

山田 祥寛 YAMADA, Yoshibiro
<http://www.wings.msn.to/>



Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
MSDE

Level



Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥ASPディレクトリに収録しています。

¥BEGINASPNET
「グループスケジュール管理」アプリケーション

はじめに

今回は、複数のユーザーでアプリケーションを共有するために必要な「認証」について学習しました。ASP.NETでは「Windows認証」や「フォーム認証」「パスポート認証」など、さまざまな認証手段に標準で対応していますが、本連載では、その中でも最も使い出のあるフォーム認証にフォーカスしています。フォーム認証はログインページを自由にレイアウト設計できるだけでなく、“ユーザー管理用の媒体を自由に選択できる”という利点があります。前回「標準のアプリケーション構成ファイルを利用した方法」「データベースにオリジナルのユーザー情報を設置する方法」について紹介しましたが、今回以降では、より拡張性に優れた“データベース連携の認証”を前提に話を進めてゆくことにします。

さて、今回は、認証によってユーザーが識別できるようになったところで、アプリケーション共有のためのさまざま

な機能を付加してみることにします。また、その紹介と絡めて、アプリケーション内の共通的な機能を再利用できるようにする「部品化技術」についても紹介します。

スケジュールアプリに 共有機能を追加する

前回は説明したように、第7回(2004年5月号)までに紹介してきた機能は、あくまでアプリケーションを利用するユーザーが“ひとり”であることを前提としていました。今後は複数のユーザーがアプリケーションにアクセスする可能性があるため、既存の機能もこれを意識した作りに修正する必要があります。

*スケジュール登録画面を修正する

最初にスケジュール登録画面(図1)に関する修正を行いません。ここでの修正箇所は「スケジュール登録機能」「日別のスケジュール表示」の2箇所です。

図1：スケジュール登録画面 (insert.aspx)



まず、スケジュールの登録部分を修正します。第3回（2004年1月号）を見直していただければわかるように、これまでschedule_masterテーブルのsidフィールド（スケジュールを登録したユーザー）には、固定値として“yyamada”をセットしていました。しかし、ここでは認証済みユーザー名をセットするように改めます。既存のコードをリスト1のように修正してください。前回も紹介したように、認証済みユーザーに関する情報にアクセスするには、Userオブジェクトを利用することができます。

次に、スケジュール登録画面の下端に表示されているグリッド表を、現在ログインしているユーザーのスケジュールのみを表示するように改めます。これまではログインユーザーを意識しないコードとなっていたので、このままではログインユーザーに関わらず、すべてのスケジュール情報が表示されてしまいます。なお、この修正に際しては、コードだけでなく、insert.aspx

リスト1：btnSbm_Clickプロシーダの修正部分 (insert.aspx.vb)

```
Private Sub btnSbm_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles btnSbm.Click
    db.Open()
    com.Parameters.Item("@uid").Value = User.Identity.Name
    (略)
End Sub
```

リスト2：BindDataプロシーダの修正部分 (insert.aspx.vb)

```
Private Sub BindData()
    objAdp1.SelectCommand.Parameters.Item("@sdate").Value = _
        Request.QueryString("day")
    objAdp1.SelectCommand.Parameters.Item("@uid").Value = _
        User.Identity.Name
    objAdp1.Fill(ds1.schedule_master)
    (略)
End Sub
```

に配置されているSqlDataAdapterコントロールobjAdp1のSelectCommandプロパティも修正する必要があります。コンポーネントトレイ上のobjAdp1を選択した状態で、プロパティウィンドウからCommandTextプロパティを以下のように修正してください。選択条件としてログインユーザーを加えています。CommandTextプロパティは、もちろん、クエリビルダから修正しても構いません。

```
SELECT sid, title, publicLevel, category, =>
    sdate, stime, memo FROM
    schedule_master =>
    WHERE (sdate = @sdate) AND (uid = @uid) =>
    ORDER BY sdate, stime
```

*）誌面の都合上⇒で折り返しています。

次いで、コードエディタからBindDataプロシーダを開き、リスト2のようにコードを追加してください（太字部分）。これによって、グリッド上に表示されるデータは現在ログインしているユーザーのものだけに制限されます。

＊ トップ画面から

他人のスケジュールを参照する

次に、トップ画面（図2）を修正してみましょう。

前号までの状態では、無条件に全ユーザーのスケジュールが表示される設定になっています。ただ、これをinsert.aspx同様にカレントユーザーのスケジュールに制限するのは芸がありませんから、ここではちょっとだけ趣向を凝らしてみましよう。

usrテーブルにreferフィールドを追加

デフォルトで表示するのはカレント

図2：トップ画面 (index.aspx)

